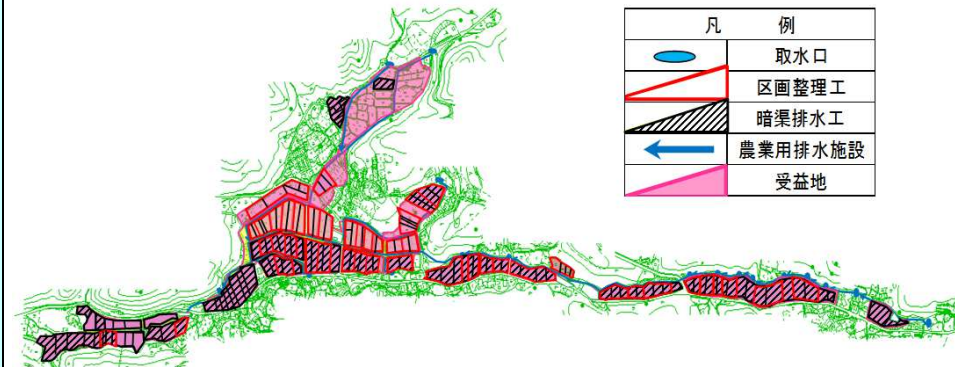


事業名		経営育成基盤整備事業		路河川名等				
事業毎の通番		1	市町村名	大町市	箇所名(ふりがな)	二重(ふたえ)		
事業概要	事業目的	本地区は、大町市の旧美麻村の中央に位置し、水稻を中心とした水田地帯である。受益地は、農村基盤整備事業(美麻北部S55～H2)により「ほ場整備」が実施され、担い手への農地集積率が70%を超えるなど営農の効率化が顕著となっている。一方、整備後30年が経過し排水路の老朽化により、担い手への維持管理労力の増大が課題となっている。このため、用排水路整備と合わせ、担い手への農地集積を促進するための再ほ場整備(大区画化)を実施する。また、転作作物(ソバ等)の導入により経営の多角化を図るための暗渠排水等を整備し、農業競争力の強化を図る。						
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	1-3 夢に挑戦する農業		事業実施の根拠法令等	土地改良法			
	関連する事業、計画等	第2期長野県食と農業農村基本計画、第7次土地改良長期計画、大町市総合計画						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益面積 A=24ha						
	着手年度	平成29年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成33年度	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	用排水路工 L=10,596m 区画整理工 A=8ha 暗渠排水工 A=12ha			300,000	165,000	82,500	30,000 22,500
	29年度事業内容(主な工種)	設計 一式			20,000	11,000	5,500	2,000 1,500
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	作物の生産性向上、営農経費の節減、維持管理費の節減					
		間接的効果(定量的・定性的)	耕作放棄地の発生防止、農業集落の定住促進					
評価の視点	必要性	○受益戸数 : 68戸 ○受益面積 : 24ha ○担い手への農地利用集積率 : 現況 A=14.9ha 62% ⇒ 計画 A=23.0ha 95%					評価	A
	重要性	○用水不足、排水不良 : 受益面積の100%に影響 ○関連計画等 : 第2期長野県食と農業農村基本計画、第7次土地改良長期計画、大町市総合計画 ○人・農地プラン : 見直し(H27) ○地域指定 : 特定農山村、過疎地域、振興山村 ○ほ場面積(標準区画) : 15a～30a(過疎地域、振興山村) ○日本型直接支払制度 : 二重地域保全会					評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.1 ○事業期間 : 5年間(H29～H33) ○工法等の比較 : 区画整理、暗渠排水の検討					評価	B
	緊急性	○近年の自然災害 : 水路の溢水、排水不良(年1回) ○用水の状況 : 水路老朽化 ○道路の状況 : 改修済み					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 受益者へ説明 ○地域の取組 : 積極的な取り組み(実行委員会設立) ○地域の合意形成 : 説明会により合意形成済み ○住民との協働 : 多面的機能直接支払により地域住民参加による維持管理活動 ○都市住民との交流 : 交流計画なし					評価	B
	部意見	老朽化した用水路による漏水と排水不良により営農に支障を期待していることから緊急性が高い。農地集積による農業競争力強化を図るため必要性が高い。	行政改革課意見	担い手の維持管理労力を軽減し、農地集積を促進するための整備であり、重要性が高く、必要性も認められる。	評価結果	○	総合評価	A

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	農村基盤整備事業(美麻北部S55～H2)により「ほ場整備」が実施され、担い手への農地集積率が70%を超えるなど営農の効率化が顕著となっている。一方、整備後30年が経過し排水路の老朽化により、担い手への維持管理労力の増大が課題となっている。また、排水不良により生産性が低下しており、品質向上による競争力強化が急務である。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	受益者からは、水路の老朽化による維持管理費及び労力の増大により営農に支障がでている。また、生産性を向上させるためには、排水対策が必要であることを要望されている。
③事業説明等の経緯	H27. 2 : 受益者への説明会(老朽化した水路の改修と排水対策) H27. 10 : 受益者への説明会(営農作業効率向上のための区画整理)
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第2期長野県食と農業農村基本計画、第7次土地改良長期計画、大町市総合計画に基づき、用水の安定供給、排水対策、区画整理を行うことで品質の高い作物を効率的に栽培して農業競争力の向上を図る。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	水路法面や水田畔の表土を保全し、在来動植物を保全することで、自然環境への影響を回避する。
⑥地域活性化への影響と配慮	区画整理、水路改修、排水改良を実施することにより、農業競争力が向上し、農業集落の定住促進による地域の活性化が図られる。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯 : N 東経 : E